

3 子どもの貧困対策 ニ崎の子ども食堂

認定NPO法人 子どものみらい尼崎 代表 濱田 格子

2013(平成25)年に「子どもの貧困対策法」が策定され、さらに翌年には日本の子どもの6人にひとりが貧困状態にあるというショッキングなデータが公表されました。「子ども食堂」は、そのような「子どもの貧困」への関心が高まる中で全国各地に広がりました。

「子ども食堂」とは、主に貧困家庭や孤食の子どもたちに無料や安価で食事を提供する民間の取り組みです。「子ども食堂」という名称は、2012(平成24)年に東京都大田区の「気まぐれ八百屋だんだん」が、「子どもがひとりでも安心して来られる食堂」という意味で名付けたのが最初です。2008(平成20)年のリーマンショックと年末の年越し派遣村は日本社会における貧困の存在を顕在化しました。子どもの貧困対策としての食事提供事業は、京都市山科区のNPO法人山科醍醐子どものひろばで2010(平成22)年から、大阪市生野区のNPO法人CPAOでは2013(平成25)年から行われています。

私が代表を務める認定NPO法人子どものみらい尼崎では、子どもの体験学習等を実施していましたが、長期休みに昼ご飯を食べずに過ごす子どもの実態を知り、2016(平成28)年夏に「七松子ども食事会」を開始しました。そして、翌年の夏には市内に急激に増えた子ども食堂の実態調査を行いました。尼崎市の「子ども食堂」第1号は2015(平成27)年6月に始まった小田地区の「まあい食卓」です。その後、市内に次々と新しい活動が増えて、2020(令和2)年1月時点で32箇所となっています。ほとんどの「子ども食堂」は、子どもの貧困対策を前面に打ち出すのではなく、誰もが参加できる「地域食堂」として実施されています。実施主体もボランティアグループやNPO法人のほか、町内会等の地縁団体や高齢者福祉施設の運営団体などさまざまです。

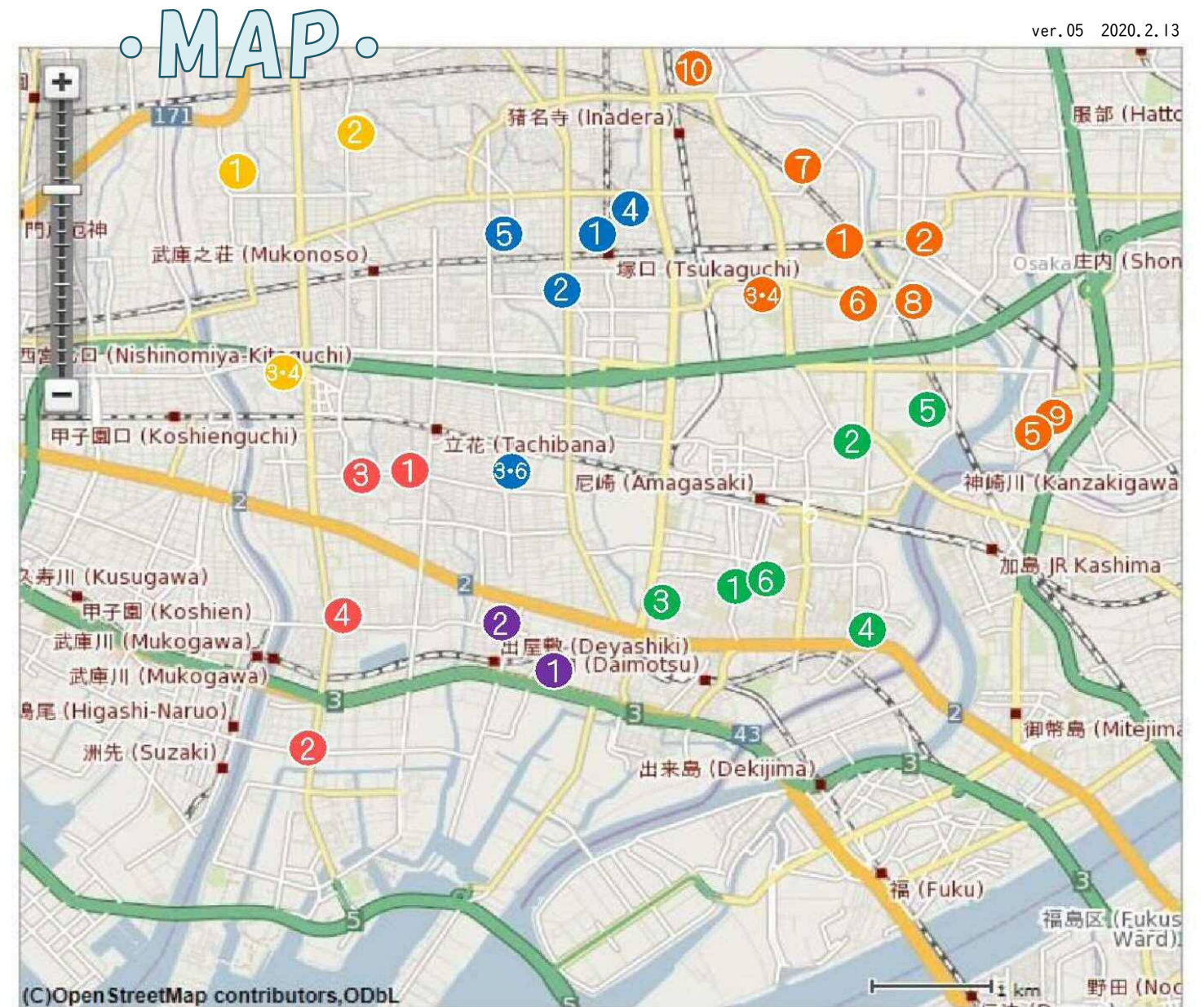
2018年1月にすこやかプラザで行ったシンポジウムで、食材および資金の調達、子どもたちへの周知方法、子どもに関わるボランティアの不足などの課題が出されたことから、尼崎市こども政策課、NPO法人スマイルひろば、認定NPO法人子どものみらい尼崎が連携して子ども食堂の研修会を2回実施しました。2019年には尼崎市社会福祉協議会が参加して「尼崎こども食堂ネットワーク」となり、7月に「つながること」をテーマとした第1回目の研修会を社協会館で行いました。2020年2月16日には、第2回目の研修会として新しくできたユース交流センターを会場に、子ども食堂だけでなく広く青少年の居場所に関心のある方々も対象とした研修会を実施しました。

「子ども食堂」は地域課題解決の拠点の一つとも言われています。その機能を生かすためには「子ども食堂」に関わる支援者が目的や役割をきちんと意識化することが必要です。それによって子どもたちの抱える課題にいち早く気づき、福祉や教育の専門機関につなぎつつ、連携して子どもや家庭を支えることができるのです。また、子どもたちは一緒に食卓を囲みつつ、思い思いに過ごすことができ、自分の居場所と感じられることが重要なポイントでしょう。あなたの身近にある「子ども食堂」、一度覗いてみませんか？



「子ども食堂」のボランティアに関心のある方はこちらからお問い合わせください。

→ <http://r.goope.jp/amakmirai/contact>



武庫地区

- ① 晴れるや
- ② 子ども食堂めぐみキッズ
- ③ なかよし食堂
- ④ にじの子ども食堂

立花地区

- ① にここらランチ
- ② 塚口みんなの食卓
- ③ 七松子ども食事会
- ④ せんつか食堂
- ⑤ うさぎや
- ⑥ ほっとぶらっと

園田地区

- ① そのっこタやけ食堂
- ② にじっ子タやけ食堂
- ③ キッチンポノボノ
- ④ サンセットカフェ
- ⑤ いこいこ！庵
- ⑥ 若王寺こども食堂キッズランチ
- ⑦ みんなでお昼ごはん会
- ⑧ みんなでお昼ごはん会
- ⑨ みんなでお昼ごはん会
- ⑩ 地域ふれあい食堂

大庄地区

- ① ほっとぶらっと
- ② タ焼け食堂
- ③ ゆりかごこども食堂
- ④ 大庄のレストラン

中央地区

- ① あまっこ食堂さくらぎ
- ② ひまわり食堂北竹谷

小田地区

- ① まあい食卓
- ② ごはん・ど・キッチン
- ③ キzzaカフェ
- ④ みんなの杭瀬食堂
- ⑤ スーちゃん食堂
- ⑥ クリスマン子ども食堂

